



YMCA News



2018年3月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所 / (公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397(代)



フォトジャーナリスト ^{やすだ なつき} 安田 菜津紀さん

わたしと熊本

2011年の東日本大震災では、陸前高田市で家族が被災し、義理の母を亡くしました。その年の6月、「疲れているでしょう。ゆっくりしにおいて」と誘われて、やってきたのが南阿蘇でした。雄大な自然と心優しい人たちに癒されて、事実上の新婚旅行となりました。

一昨年の熊本地震発生後、YMCAが指定管理者であった益城町総合体育館の避難所を訪問しました。今に至る熊本地震の取材の出発点の一つです。

私の取材は人との関係から始まります。お世話になった人がいるから、友人が苦しんでいるから、国内外問わず足を運ぶのです。熊本地震の取材も同じ。私にとって熊本とは震災以前からのつながりがある場所。帰ってくる場所の一つです。

“少しでもよくなりますように”

紛争地や被災地では、無力感にさいなまれることもあります。でも、ぶれない軸として持ち続けたいのは「伝えることであなたの今の状態が少しでもよくなりますように」と願ってシャッターを切ることです。すべての人々が紛争地帯や発災直後の被災地に行くことはできません。しかし、写真には、写っている人と出逢った感覚にさせる力があります。出逢うことで人間はその人たちに思いを馳せるようになります。

これが、フォトジャーナリストという仕事への私の向き合い方です。

取材では農業や漁業に携わる人たちとできるだけ話をします。この方々は常に自然とともに生きておられるからです。ときに猛威を

声をあげられない人たちに注ぐまなざし

振るう自然に人間は抗うことで生きていけるでしょうか。

陸前高田市にも高さ12.5mの防潮堤が作られました。多くの人工物によって復興を成し遂げようとしているように見えます。丘を削れば水脈が、塀を築けば風の向きが変わることを農業に携わる人々は知っています。東日本では津波の脅威が大きかったがゆえに、十分な住民の合意形成なく防潮堤が作られた自治体があります。

熊本でもあちこちで大規模工事が進んでいますね。南阿蘇の人たちに「恐怖を克服して」とは言えません。重要なのは、意見の相違があっても、住民の意見を十分に聞くプロセスを経るかどうかだと思います。

東日本大震災から、今、熊本が学ぶべき教訓

東日本大震災から6年経った昨年、気仙沼市の仮設住宅で40歳代の女性が死後3週間経って発見されました。この死が問うている問題はなんでしょう。

東日本では災害公営住宅の建設も進み、仮設住宅はかつてとは違う「櫛の歯が抜けた団地」に変わっています。「仮設の見守りはもういいよ」と、関心も支援もだんだん離れていっています。しかし、これから取り残されていく人たちこそ助けを必要としている人たちであり、自分から声をあげられない人たちです。「最後の一人まで見守る」。これは行政だけに押し付けることではありません。社会全体が手を携えられるかが問われていくでしょう。私は取材で熊本に赴くことで、取り残されていく人たちの声を伝え続けていきます。



熊本地震から1年後に実施した復興祈念パネルディスカッション



復興支援活動を続けるYMCA国際コースボランティアと交流

子どもの表情から社会の実相が見えてくる

シリアには、爆撃によって明日をも知れない身の子どもたちがいます。お金も人手も不足しています。では日本はどうか、と考えると、状況は大きく異なります。日本の子どもたちは、モノ・ヒトに囲まれた一定の「豊かさ」にいるにもかかわらず、必ずしも明るい表情をしていません。日本では子どもの問題が見えにくくなっているのです。共通するのは「子どもたちは自分から声を出せない」ということ。声を出せない子どもたちからは、学ぶ機会、成長する機会、知る機会など、様々な機会が奪われます。シリアやイラク、そして日本の子どもたちを脅かしているのが「機会の欠如」なのです。

子どもは社会の指標です。子どもの表情を見ると社会の実相が見えてきます。だから、私は国内外問わず様々な地域に赴き、子どもに視線を注ぐのです。

2面につづく

Pickup



かまくら、たのしいね。
五ヶ瀬1泊スキーキャンプ



バウムクーヘン、
おいしくできるかな？
デイキャンプ



上手に滑れた！
チャレンジスキーキャンプ

無知は無意識に人を傷つけることがある

中学生の時に父と兄を亡くしました。生きづらさを感じていた高校2年生の時、NGOの「友情のレポーター」というプログラムでカンボジアに行ったのがフォトジャーナリストになろうと思ったきっかけです。

現地の養護施設の女の子と仲良くなろうとした時のこと。恋愛の話をしたら、その子はその場を離れていってしまいました。後で聞いたのですが、その子は人身売買の被害者で「自分は恋愛してはいけない」と考えていたのです。「無知は無意識に人を傷つける。もっと勉強して人の心に近づける人間になりたい」。そう思った忘れられない経験です。

若い人が外の世界へ踏み出すには勇気が要りますが、外の世界を知ることによって人を慮ることができる多様な価値観が育まれます。「もっと学びたい!」という気持ちを持って帰ってくるのです。国内でも構いません。いろんなことにトライしてもらいたいと、東北スタディツアーの企画や友情のレポーターの引率などにも携わっています。

実は排他的なSNS

社会には情報が氾濫しています。SNSは短い文字コミュニケーションのツールとして定着しました。しかし、短い文章はとかくラディカル(過激)になりがちです。ラディカルな表現には「いいね」がたくさん押され、発信者は意見が承認されたという錯覚に陥る危険をはらんでいます。SNSの情報は実は排他的で偏っているのに、それが世界のすべてのように見え、実際に起きていることや真実を拒絶してしまうこととなります。

国会で、ある大臣の答弁がありました。翌日、A新聞には「〇〇大臣、疑惑を晴らす」、B新聞には「〇〇大臣、疑惑を深める」と書いてある。当然、なんで?と思うわけですが、このなんで?から生まれる探求心が大切だと思うのです。情報が氾濫する時代だからこそ、私たちには「立ち止まって考えてみる勇気」が求められています。

大人が子どもにできること

ニュースはときに人々を“のっぺらぼう”にしてしまうことがあります。難民が...〇〇人が...という“集団化”です。また、伝え方によっては国の指導者のイメージを人々にあてはめる“アイコン化”が起きてしまいがちです。

大人は、あの国にも私たちと同じ人間が暮らしているんだよ、と子どもに伝え、多様な人たちと実際会って交流する機会を提供しなければなりません。知らないことにふれるのは「コワイ」ではなくて、むしろ「ワクワクすること」。こんな原体験が子どもには必要ですね。

学校以外の居場所も必要

幼少期は神奈川県で過ごしました。YMCAの体操とキャンプが楽しくて、友だちを次々に誘う女の子でしたね。

学校と同じくらい学校以外の居場所が子どもたちには必要だと思います。学校以外の居場所では、普段とは違う友人の素顔を見ることができます。キャンプでは、あーあの子あんなにリーダーシップがあったんだ、とか、あの子あんなに木登りが上手なんだ、とか。その気づきが、友人たちとの新しい絆を育ててくれました。気がついたら、心の選択肢が増えて、いろんな場所に居場所を見つける大人になっていました。YMCAはそんな場所として私に影響を与え、今もそれが生きています。

(聞き手/職員 富森靖博)

安田菜津紀さん

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けながら、熊本地震の取材も行っている。安田菜津紀さん近著「写真で伝える仕事ー世界の子どもたちと向き合せてー」



R | E | P | O | R | T

[1月16日⇒ 1月30日]

キリスト教 熊本バンド結盟142周年 記念講演会・早天祈祷会

熊本洋学校で教師ジェーンズの教えを受け、キリスト教を日本全国に広めようと花岡山で誓った青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流となった熊本バンドの結盟142周年を記念し、1月29日(月)に講演会、翌1月30日(火)早朝6時半より早天祈祷会を行いました。

花岡山山頂で行われた早天祈祷会では、前日の講演会でも講師を務めた同志社大学キリスト教文化センター所長の横井和彦さんにより「150周年、200周年に向けて」と題して奨励が行われました。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」(ヨハネによる福音書8章12節)の聖句を通して、「よりよい未来のために、熊本バンドの開拓者精神に思いを馳せ、私たちは何を引き受け、何を変革すべきか問うていく必要があります」とメッセージが語られました。

雪もちらつき冷え込みも増す中、142年前の青年たちの熱い思いが現代に生きる我々にしっかりと息づいていることを実感する時となりました。

職員 山田幸平



展示会 建築と社会奉仕 ヴォーリズ展in熊本

建築家であり、近江八幡YMCAを設立するなど、YMCAとの関わりも深い、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの足跡を振り返る展示会を開催しました。1月16日(火)～21日(日)の期間中、会場の熊本県立美術館分館には、全国からもヴォーリズとつながりのある人々が訪れるなど、総勢1,011名が来場。また、熊本洋学校・熊本バンドに関する展示も行い、熊本とヴォーリズとのつながりを伝えることができました。展示会のほか、講演会や建築見学会などを通して、ヴォーリズの実像や事業を紹介しました。

17日(水)に熊本県立劇場で行われた記念講演

会では、姜尚中さんが「ヴォーリズの様々な社会活動に思いを馳せ、現代のキリスト教界も、今こそ、教派を超えた活動を行っていくべきではないでしょうか」と話しました。

一連の行事を通し、「豊かに生きる」とはどのようなことであるかを多くの人に感じてもらうのではないのでしょうか。建築に代表されるヴォーリズの事業の根本にはキリスト教精神が満ちあふれています。常に隣人愛を実践したヴォーリズのメッセージを、今後も、皆さんと共に発信できる機会があることを願っています。

職員 熊本哲朗



Information 行こう 見よう 深めよう

3月21日 Wednesday

YMCA会員交流会 益城町、御船町住民と交流

復興支援
×
交流

食バザーやゲーム、ミニコンサートなどを通して、仮設団地に暮らす皆さんとも交わります。皆さんの笑顔と優しさが復興の力になります。ぜひご来場ください。出店等のためのボランティアも募集中。ご協力ください。

回 3月21日(水・祝) 11:00~14:00 場 木山仮設住宅 東集会場及び広場/御船町スポーツセンター(同時開催) 因 益城町、御船町の住民と食バザーやレクリエーションでの交流 圏 熊本YMCA 圏 最寄りのセンターにお問合せください

3月25日 Sunday

つながる命 支え合う心 防災まつり2018

熊本地震から間もなく2年。楽しみながら防災について学ぶことができる「防災まつり」を実施します。どなたでも参加可能。ぜひお越しください。

回 3月25日(日) 9:30~13:00 場 ながみねファミリーセンター(東区長嶺南) ※公共交通機関でのご参加にご協力ください。 因 熊本地震自主避難所再現、防災訓練、消火体験、災害用伝言ダイヤル体験、起震車体験、特殊車両見学、パトカー試乗体験、ロープワーク、非常食の試作・試食他 ※雨天時は別プログラムを室内で実施予定 圏 無料 ※一部有料プログラム有り

4月4日・6日

人間力育成 新入社員ボランティア入門講座

学び
×
体験

車いすで生活を送る障がいのある講師により行われる企業合同の研修プログラムです。自分とは違う立場での見方や考え方を学びます。新入社員研修の一環として、ご参加ください。

回 4月4日(水)・6日(金) 12:00~14:30 場 中央センター(熊本市中央区新町1-3-8) 圏 一人2,000円(フィランソロピー協会会員企業)/2,500円(非会員企業) ※講習料、昼食代を含みます。

圏 YMCAフィランソロピー協会事務局 熊本YMCA Tel 096-353-6397

防災
×
交流

防災講話&ワークショップ

講師 大森真樹さん(薬剤師 東日本大震災や熊本地震の際に九州山口薬剤師会災害ボランティアとして活動) 時間 9:45~10:45 因 熊本地震震災支援講話、クロスロード(防災ゲーム) 圏 中学生以上 圏 Tel 096-385-0676



回日時 場会場 因内容 圏参加費 圏定員 圏参加条件 圏持ち物 圏対象 圏主催 圏締切 圏申込 圏問合せ 圏その他

R | E | P | O | R | T

[1月]

発表会

子どもたちに元気を 保育を学ぶ学生が公演

YMCA学院児童福祉教育科19期生の卒業発表会を1月、熊本市、阿蘇市、益城町で行いました。半年以上かけて、涉外、広報、脚本、演出、音響、照明まですべてを学生が担当し、運営。子どもたちに伝えたい思いを「虹」というテーマに託し、創作劇、ダンス、合唱を披露しました。7つの色が同じ方向に向かって描けないと架けることができない虹。19期生全員が同じ方向を向いて協力していくことで、子どもたちに「力を合わせることの大切さ」を伝えていき

いという願いが込められています。

学生たちは「益城の子どもたちと共に笑いたい」という思いから、仮設住宅でのボランティアも並行して実施。益城町文化会館での公演では、子どもたちへ元気を届けることができました。「皆で協力して物事を成し遂げる難しさを知ることができた」「人とつながる楽しさを感じた」と学生たちも多くの学びができました。4月からは保育者として、子どもたちと向き合っていきます。 職員 入江真理子



岡 総主事の タラント トコ Vol.45



人生これから

私事ではありますが、先日、90歳の父を見送りました。3年前に要介護認定を受けて高齢者施設に入所。ここ半年は入退院を繰り返していました。1927年生まれ、戦中戦後の混乱した時代を生き抜いたたくましさを持ちながら、お酒

落な父でもありました。母が先に天に召されてから、7年の月日を一人で過ごした父。たまに会う息子や孫との会話と買い物を楽しみにしていましたが、徐々に外出することもできなくなり、最後は力尽きたように見えました。

総務省が発表した2017年9月15日現在の統計によると、日本の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は27.7%と過去最高になりました。また、90歳以上の人口が初めて200万人を超え、日本の高齢者人口の割合は世界で最高になっています。今一度、ウエルネスライフに立ち返り、誰もが自身の生き方と活力を取り戻して探究心を高める、そのような機会とコミュ

ニティを創っていかねばなりません。YMCAのウエルネスセンターも、身体の鍛錬はもとより、様々な世代との交流を通して、他者との違いを認め、お互いを高め合い、個々の成長が感じられる居場所であることが必要です。

心と体、そして社会の健康を保つことは、充実した人生、生活を送る上で重要です。私自身、神様からいただいて親から大切に育ててもらった財産である体を大切にしなければと改めて感じています。長い人生、時代や環境の変化に合わせて、より良いライフスタイルを求めているものです。

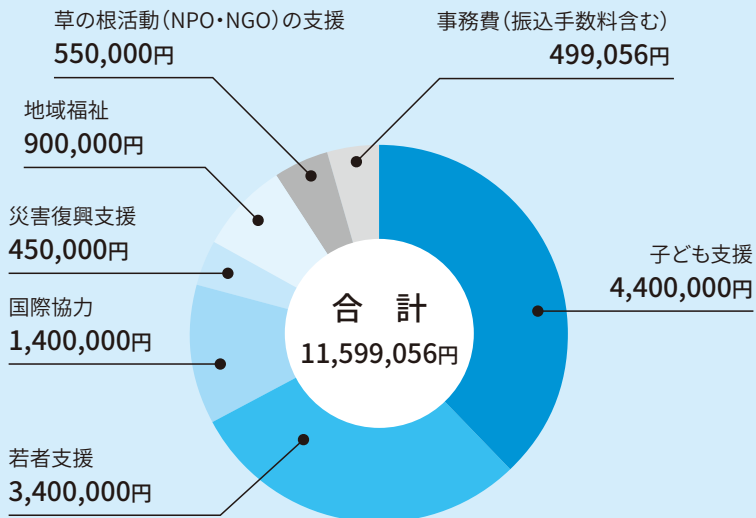
talanton

YMCA年末募金 こども 若者 国際協力

2017.11~2018.1

様々な活動に、皆様の募金が役立っています

募金の使途



YMCAはこれからも希望ある

Voice 1

タイ・ユースワークキャンプ参加者
YMCA国際コースボランティア
熊本大学2年生
中村 玲那さん



「どのように生きたいか」を考える機会に

大学1年の時に、タイ・ユースワークキャンプに参加しました。きっかけは「海外に行ってみよう」という単純なこと。熊本YMCAを通してタイの山岳民族の子どもたちの支援が行われていると知り、「こんな遠い場所とつながっているんだ」と驚きました。同時に、タイの子どもたちが抱える問題について、もっと学びたいと思い、翌年も参加。人身売買などの深刻な話を聞く中で自分にできることはないかと考えるようになりました。

私たちユースのワークキャンプ参加費も皆さんの募金によって支援を受けています。大人になってからも学ぶことはできますが、若い時の経験は「自分がどのように生きたいか」という選択の幅を広げてくれます。将来は、私が出た子どもたちに、そのような機会を提供できる大人になりたいです。



県内外14カ所で行った街頭募金活動

各センターでチャリティプログラムを実施

- 廣石妙子 広瀬和代 広瀬美貴子 深田真紀
福井樹輝 福井美佐 福井海優 福井瑠璃 福
島健太 福島貴志 福島昭子 福嶋豊 福島莉
沙子 福田華穂 福田邦子 福田桐 福田伸二
福田陽菜花 福田理枝 福徳咲菜 福徳颯太
福永和美 福永星蓮 福野愛花 福原直輝 福
原真理子 福山あかり 福山裕敏 藤井昭夫
藤井寛子 藤川登士郎 藤木良子 藤木か
藤澤輝 藤田香織 藤田直歩 藤本猪智郎 藤
本浩輝 藤本紗和 藤本博人 藤元美紀 藤元
結心 藤本理紗子 藤森美幸 藤山みどり 二
子石真弓 籠孝太郎 布留川英子 古澤みづ
き 古島尚子 古庄輝 Brethi Moseley 北條
将人 外城律子 外村碧海 外村恵子 外村剛
星原花音 堀川和幸 堀川雅司 堀川美智子
堀千恵 堀原園江 堀部真紀 本郷楓平 本田
愛実 本田伊吹 本多みこみ 本田静香 本田
翔馬 本田節子 本田泰己 本田隆 本田富子
本田麻依子 本田雄二 本坊雄一 本堀秀一
本田晃希 前田香代子 前田さとみ 前田友
子 前田なおみ 前谷季 前田浩 前田夕紀
前田理江 前原真之介 益田昌弘 増田完治 増
田結一 増田有真 益永夏名 増永高治 増永
拓馬 増見卓 増見寛代 増村光一郎 増村光
莉 町野千砂子 松岡郁恵 松岡郁子 松岡和
子 松岡京子 松尾元子 松岡タカ子 松岡正
恵美 松岡時枝 松岡伸枝 松岡久代 松岡正
勝 松岡結 松岡勇樹 松尾隆寛 松崎萌々心
松下由奈 松田アデラ 松田貴恵 松田晃宜
松谷英一 松田実 松永歩子 松永夏紀 松永
松和 松根敬子 松野利美 松藤直美 松村優
月 松本和良 松本健聖 松本煌大 松本虎太
郎 松本教義 松本仁美 松本美波 松本美幸
松本裕都 松本優芽 眞西美緒 眞西優治 馬
原陽美子 丸内陽子 丸住優奈 丸目陽子 水
江輝男 水上千賀子 水島由紀 三島琉偉 三
隅洋平 水元裕二 溝上惺也 道本ゆう子 三
井煌大 光永尚生 三橋潤 三星香菜子 三森
渚央 三森涼 皆見治男 南ゆり 糞田誠一
宮内悠貴 宮川輝之 宮川由香理 宮家花音
宮崎真裕美 宮崎桃夏 宮崎由依子 宮崎和
絵 宮崎隆二 宮田東海 宮田滋 宮田茂 宮
田房之 宮田美穂 宮田唯希 宮永誠也 宮村
将太郎 宮本愛智子 宮本音愛 宮本信治 宮
本大輝 宮本南雄 宮本昌宣 宮本マリア
コンセプション 宮本素子 宮本悠希 宮本
裕治 宮本理生 迎由美子 武藤晃大 武藤興
村 武藤秀治 村内愛子 村内卓也 村上愛
村上玲子 村上恵麻 村上千雨 村上智経 村
上乃彩 村上大樹 村上上 村上楓果 村上唯
華 村上幸子 村崎崇史 村嶋薫 村嶋邦彦
村島光 村瀬幸子 村田葵 村田紀美子 村田
健一 村田健真 村田誠子 村山みどり 村田
桃夏 村松希咲 村松倬多 村山香代子 毛利
秀烈 元田千尋 元田万尋 元田留美 森一乃
森川慎子 森孝典 森茂雄 守田愛沙 森田和
昂 森高チズ子 森田俊 森田靖也 守田富男
森田麻奈美 森田義範 森山朔迅 森山響希 森律子
博之 森村陽子 森山朝迅 森山響希 森律子
安川百合子 安田百合絵 安永葵子 安永尚
己 弥奈雄次 矢野めぐみ 山内恵美 山内勝
己 山内純太 山内さやか 山内瑠空 山内美
空 山内裕子 山口鈴叶 山口富士子 山崎幸
代 山崎拓磨 山崎真依 山下和美 山下美紀
山下美穂 山田幸平 山田真二 山田羽空 斗
山田英紀 山田二美世 山田正子 山田洋子

- 山田芳之 山部亜風 山部英一郎 山部加奈
美 山邊瑞稀 山部亮子 山部遼士郎 山室雅
姫 山本咲希 山本章馬 山本誠司 山本直子
山本奈波 山本ミチ子 山本優人 山本好郎
山本了 幸村克典 由布早希 由布一哲 横田
佳恵 横田すみれ 横田治美 横田博 横山大
翼 横山豪大 横山純一郎 横山大晴 横山友
吉岡久美 吉岡光憲 吉岡レイ子 吉岡恋 吉
田明日香 吉田和子 吉田一翔 吉田早織 吉
田幸子 吉田さゆり 吉田ひら 吉田純子 吉
田祥太 吉田ひかり 吉田美華 吉田安夫
吉田夢乃 吉田梨沙 吉松裕藏 吉見哲朗 吉
知子 吉村萌 吉本淳志 吉本寛治 吉本伶
加 吉本舜 吉本真一 吉本典子 吉本優子
吉安真理 吉山典秀 吉脇昇吾 依田智義 依
田道子 米倉邁 米倉容子 米田陽平 米原伽
音 米村謙一 米村紀子 米本麻央 米海恵子
李英 若松明美 若柳久美 和田修一 渡邊愛
華 渡邊嘉代子 渡邊紀久子 渡邊琴美 渡邊
心春 渡邊美香 渡邊美幸 渡邊仁子 渡邊友
美

企業・団体

- (医)愛育会福岡病院 青山ダンススクール 赤
星建築都市設計研究所 あきよし調剤薬局 ア
スター(株) あつまるホールディングス 荒尾法
律事務所 荒木公認会計士事務所 池沢小児科
(有)イズミコーポレーション(株) イフワート
(有)入江生花店(株) ヴィネット(株) 上田商
会(医)永誠会介護事業部 エコマザー(株)
(有)大谷書店(名)大橋時計店 温石惣菜上通
店(株)快建設 甲斐療術院 学生服のタケモト
カトウ食器 カトリック健康教会 Cafe
フェリカ 上通商栄会 髪ひだ(株) 魚井ランテ
(株) カリーノファッションリテイラー 関東学院大学
燦葉会熊本県支部(株) がんばりっ子 漢方上
通薬局 北里総合法律事務所(株) キッズ・コ
ーポレーション(社) キャリアカレッジ キヤ
リア・サポート(株) キュリアカレッジ キヤ
リア・サポート(株) 九州音楽幼稚園 九州工
科自動車専門学校 九州ビルサービス(株) 熊本
支店(二)財)杏仁会花鏡(税)近代経営社員一
同(株)熊本朝日放送(株) 熊本クーパー(株)
熊本ジェンズワイズメンズクラブ 熊本市第
37分団(五福校区消防団) 熊本白川教会 熊本
聖書教会(株) 熊本製菓所 熊本地域医療セン
ター(株) 熊本放送 熊本みなみワイズメンズ
熊本ヤクルト(株) 熊本トラバリアリティシオン病
院 熊本ワイズメンズクラブ グラベルサイク
ル グリーン薬局帯山店 Crepes クレマ
ツネーム店 くらかみ美容室 ゲストハウス熊
本(南阿蘇珈琲) 光進建設(株) 康仁堂鍼灸院
(有) コムシモト(株) コスモ不動産(有)
小園商店(こ)動物病院 さいご総合法律事
務所 斎藤会計事務所(医) 幸会なかの耳鼻咽
喉科 アレルギ科クリニック 佐藤白蟻工業
(株) (有) サンオーソ サントロビエラレッ
ジ サービス(株) (株) シカオ 頌栄幼稚園母の
会(株) 城野印刷所(有) 舒文堂河島書店(特
非) 自立応援 水前寺ワイズメンズクラブ
ウィットメリー すき焼加茂川 西部管工土木
(株) (株) セイブクリン(株) 体育館(株) 大
劇(医) 大樹会エグザン(株) 泰星
会 タイヤエンジニアリング サポート(株) 高
峰果樹園 託麻南校区8町内自治会(株) 竹本
商会 タケモトデンキ(株) (株) 多田産業(株)

その他

- 浦野知文学講座 一同 街頭募金(COCCO S
A 下通前・マクドナルド 新市街店前 JR 熊
本駅・ゆめタウンはません・ゆめタウン大江・
ゆめタウンサンビアン・シュウアモール長嶺・
サンロードシティ熊本・ゆめタウン光の長嶺・
ホームワイド・えびすばー阿蘇店・スパー
みやはら内牧店・道の駅阿蘇・ゆめタウン大
牟田) カウンタダウンキャンプ 熊本地区ワ
イズメンズクラブ新春合同例会 熊本YMCA
A チヤリティゴルフ新春合同例会 熊本YMCA
献金等(常議員・熊本YMCA職員・中央セ
ンター・YMCA学院・みなみセンター・な
がみねファミリーセンター・むさしセンター・
阿蘇) 写真販売 城東校区百歳体操セン
ター祭(中央センター・みなみセンター・上
通センター・東部センター・水前寺幼稚園・
ながみねファミリーセンター・むさしセン
ター) チヤリティプログラム(中央セン
ター)・みなみセンター・上通センター・なが
みねセンター・むさしセンター) YMCA
学院社会福祉学科通信制 社会福祉士受験対
策講座 精神保健福祉士受験対策講座 東部
センターチャリティコーヒー ながみね30
周年講演会礼拝 募金箱(中央センター・Y
MCA学院・上通センター・東部センター・水
前寺幼稚園・みなみセンター・ながみねフ
ァミリーセンター・むさしセンター・阿蘇キ
ャンプ・熊本YMCA就労支援センター・永草
保育園・桃田運動公園・木山仮設団地・熊本
兵庫研修・学習会 むさしセンター 木工芸教
室 年末募金キックオフパーティー(有) YMCA
オークション YMCA YWCA 合同祈禱
会

◎その他個人企業・団体により匿名にて200件

苦しみの中にも、幸せを見出すために 高木慶子シスター講演会

2017年12月5日(火)、「くまもと森都心プラザホール」で開催された市民クリスマス2017「高木慶子シスター講演会」の内容を、一部抜粋してご紹介します。

「Merry(うれしい)Christmas」といいますが、なぜキリストの誕生日が「Merry」なのでしょう？ 私は、病などでターミナル(終末期)にある方のスピリチュアルケアを行っています。病で伏せていたある男性のお話です。彼は私に「死んだらお金も何も持って行けない。私はどうなるのか」と尋ねられました。私はこう答えました。「死のドアの向こうで温かく迎え、あなたを許してくれる存在がいますよ。それは私にとっては神ですが、あなたにとってはまた違う誰かかもしれません」。男性が思い浮かべたのは先に亡くなったご家族だったのか、それとも恩師、知り合いの方だったのかは分かりませんが、その存在を信じられて、穏やかに虹の橋を渡っていかれました。



多くの作家や詩人も謡っているように、人間は誰もが十字架や苦しみを背負い生きています。そんな時は、神でも仏でも、家族や身近な人でもいいのです。人智を超えた存在を信じ、祈ることができるのは、とても幸福なことです。そして死の淵に立ったときこそ、もっともその存在の有難さを知ることになります。ですから、そのような祈りの対象となるキリストの誕生日は「Merry」なのです。

人生の中で抱える苦しみや悲しみ、あるいは自分の性格と折り合いがつかなくなったり、思いどおりにならなかったりしたままで生きていくつらさは一人ひとり異なり、どのようにしても他人には計り知れないものです。しかし、人は「助け合う」ことはできます。相互に思いやりを持って、寄り添い愛する心をもって生きていくことで、自分の心にも恵みと平和が宿るものなのです。周りの人の苦しみに寄り添い、思いやりの心で人生を受け入れ合いましょう。それが、苦しい人生の中で誰もが幸せを見出すために大切なことだと思います。



講演者／高木慶子さん
熊本県生まれ。熊本信愛女学院高等学校卒業、聖心女子大学文学部心理学科卒業、上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。上智大学グリーンケア研究所特任所長。30数年にわたり、ターミナル(終末期)にある人々のスピリチュアルケア、悲嘆にある人々のグリーンケアに携わる。



いじめのない世界をめざす ピンクシャツデー

YMCAはいじめのない世界をめざす「ピンクシャツデー」に取り組んでいます。

社会全体がいじめに対して「自分ごととして」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている子どもたちを救うことになる…と私たちは考えます。

あなたの優しさ、ほんのみじかい声かけで、子どもの命を救うことができるかもしれない。このことを伝えるため、動画を制作しました。



ファンドレイジングサイトJAPANGIVINGでは、この動画を一人でも多くの人に見てもらうための支援を募っています。

ピンクシャツデーの詳細と、動画はWebサイトをご覧ください。

熊本YMCA ピンクシャツ 2018



発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡成也 編集人／富森 靖博
定価60円 購読料は会費を含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2017年度基本聖句

ヘブライ人への手紙 13章5節
わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない。

わたしと聖句



日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団希望ヶ丘キリスト教会

本堀 秀一

コヘレトの言葉 11章4節

風向きを気にすれば種は蒔けない。雲行きを気にすれば刈り入れはできない。

今やるべきこと

農業の経験がある方にとって、ごくごく当たり前に聞こえる聖書の言葉です。しかしこれら私達の人生に重ね合わせてみるとどうでしょうか？ やるべきことはわかっているのに、様々な理由をつけて、どうも行動が先延ばしになる。そんな経験は誰もが持つておられるかもしれません。

聖書にあるように「今日は風が強いから」「雲行きが怪しいから」と手をこまねいていたり、種蒔きに都合のいい日を待っていて、人生は思い通りに流れることはありません。勿論そんなことではいつまでも種蒔きもできず、刈り入れもできず、結局何もしないで終わってしまうのです。それは「日々これ好日」ということではありません。私達の人生には、好日だけではありません。思い通りにいかないことが起こる日も多くあります。そんな中で、手をこまねいて好日が来るのを待つのではなく、どんな日にも種を蒔き、どんな日にも刈り入れをして、今日という日を好い日にしてほしい。これが聖書の大切なメッセージです。

そして神様と共に働けば(つまり祈りながら、感謝しながら進み始めるなら)、どんな日も素晴らしいチャンスに満ちた日へと変えられていきます。宗教改革の中心となったルターの有名な言葉があります。「たとえ明日、世界が滅亡しようとも今日私はリンゴの木を植える。」もし今なすべきことがあるならば、先延ばしにせず、すぐにとりかかってください。その行動は必ず、あなたの未来を変えるはずです。